

岩手県宿戸沿岸藻場保全調査（自主研究）

－ 海藻が生えてきました！ －

本調査は、東日本大震災の津波により被害を受けた宿戸沿岸を支援するため、当センターの自主研究費で、平成 24 年度より 3 カ年を予定して実施している調査です。平成 24 年 9 月に事前調査を実施し、投石礁がウニ（キタムラサキウニ）の住み場になっているので、11 月に、ウニの侵入を抑えるウニフェンスを設置（15m×15m）して、その内側（225 m²）のウニを徹底的に除去してきました。

写真は 4 か月後（平成 25 年 3 月）の海底の状況です。右側がフェンスの外側、左側が内側です。モロイトグサなどの先駆的な紅藻類が繁茂し、ワカメやコンブの幼体をたくさん確認することができました。また、内側ではエゾアワビが多く見受けられ、おそらく、細いロープでも簡単に登る活発なエゾアワビが、小型の海藻を食べにフェンスを乗り越えて集まってきたものと思われます（アワビは海藻を食べますが、ウニに比べて食圧が弱いので、海藻を食べつくすことはありません）。一方、ウニも侵入していましたが、当初に比べて密度は低く抑えられています（下のグラフ参照）。侵入したウニは、再度、除去してきました。

今回の結果から、ウニ駆除だけ行うより、ウニフェンスと組み合わせる方が効果的であることがわかりました。また、海藻が生えたことでアワビ増殖の効果も期待できそうです。今後は、漁業者とともに、藻場保全を順応的管理で進めて行く予定です。

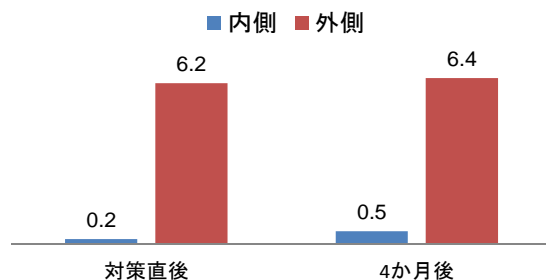


対策直後（平成 24 年 11 月）

4 か月後（H25 年 3 月）

【今後の予定】

- | | |
|------|-----------|
| 4月中旬 | 地元報告会 |
| 5月 | モニタリング |
| 8月 | モニタリング |
| 11月 | フェンス区域の拡大 |



ウニ密度（個/m²）の経時変化

（調査研究部 安藤 巨）